

令和7年度 中学生の「税についての作文」
緑納税貯蓄組合連合会 優秀賞

義務と関心と意見

桐蔭学園中等教育学校 第二学年 尾内 心



ところが、新しい通路が整備されてから駅までがまくらべつながり、信
頼待ちがなくなりました。雨の日は屋根の下を運ぶので靴や服が濡れ
ることがなくなり、暗いながら照明のおかげで安全に歩けるようになりました。通るたびに、これは便利だとと思つだけではなく、いつも整備に
も税金が使われてこらのかもしだと想つようになりました。

僕の母は税理士です。確定申告の時期になると毎日のように机に向か
い、大量の書類を広げて計算して最終をよく見ました。その頃の僕は、
それを見ても「難しそう計算をする仕事」ばかりしか思つてこませんでした。

ある日、小学校の社会科の授業で「税金の使い道を調べる」とこの宿題
が出ました。初めは、税金といえば道路や学校をつくるためのお金だらう
と漠然と考えてこました。けれど資料調べて調べたが、それだけでは
ないことが分かってきました。例えば、災害で家を失った人のための支援
や、病気やけがで働けない人を助ける仕組みなど、目に見えないといひに
わたくの税金が使われてこると知りました。その時僕は、税金はただのお
金の集まりではなく、社会の安心を支える大切なものだと感じま
した。

そのことを強く実感したのは、最寄りの駅に向かう新しい通路ができる
時です。以前は駅に行くには大通りの信頃を渡る必要があり、朝の通学時
には信頃待ちで時間がかかっていました。雨の日は傘を差しても水
しぶきがかかることや、暗い時間帯には車通りの多さが少し怖く感じり
れることなどがありました。

僕は今まで、税金は国や地方が勝手に集めて使うものといつ、とにかく他
人事のような感覚を持つていました。しかし身近な場所の変化を通して、
税金は自分の生活に直結してこると実感しました。またこれ調べて
いて中で道路や施設の整備はもちろらん、災害時の支援、子育てや高齢者の
介護など、もし税金がなかつたら困る」とあります。

税金の役割は「自分のため」だけではありません。僕が使わないかもし
れない施設や制度にも税金は使われてこますが、それは必要としている
誰かを支えるためです。頃も名前も知らない人のためにお金を出すこと
うのは、不思議なことですが、とても大事なことだと感じます。社会全体
が安心して暮らせるようにするためには、一人ひとりが負担を分け合つ
必要があるのだと理解できました。

また、税金の使い道には課題がありますとも知りました。無駄遣いや隠蔽
などと批判される事例や、わざと必要な場所に回すべきではないかとい
う意見があります。それでも、全く税金がなかつたり学校も病院も道路も
組みや大切さを理解し、税金を納める責任の使い道にも関心と意見
を持つ大人になつたのです。

